



伊予里 市議会だより

第22号

平成19年
(2007年) 8月

たんざくにお願いいっぱい書いたよ (消防セタささ飾り/みなみ保育園児)

一般会計 6月補正額：5,654万円

予算総額：198億3,954万円

(対前年度同期 +3億3,629万円、+1.7%)

★第3回定例会は9月3日(月)開会予定です。

平成19年伊万里市議会第2回定例会 会期日程

6月

開議時刻 午前10時

日	種別	内容
12(火)	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案等22件・・・一括上程 市長提出議案等の提案理由説明
14(水)	本会議	議案等に対する質疑
15(金)	本会議	議案等に対する質疑 議案の常任委員会付託
20(水)	本会議	一般市政に対する質問
21(木)	本会議	一般市政に対する質問
22(金)	本会議	一般市政に対する質問
25(月)	休会	常任委員会
26(火)	休会	常任委員会
27(水)	休会	正副委員長会
29(金)	本会議	決議案、意見書案の上程 決議案、意見書案の提案理由説明 決議案、意見書案に対する質疑 常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 議案の付議順序により討論、採決 特別委員会委員の選任 選挙管理委員会委員及び補充員の選挙 閉会

議長就任あいさつ



議長 前田 教一

議長就任は身に余る光栄です。公平、公正をモットーに議会を運営し、執行部に対するチェック機能を更なるものにしていきたいと思っております。財政はどこも厳しく、伊万里市として例外ではありません。工業用水道建設など、一時的には脆弱な財政を圧迫するでしょう。しかし、財政は豊かでもその健全性は当然求められます。また、高度医療を市民に提供する公的病院建設の問題も、しっかり議論し、主張すべきは主張し、譲るべきは譲ってその実現に努力します。市議全員で英知を結集し、市民の付託に応えたいと思っております。

◎ 副議長 : 占野 秀男

◎ 議会選出監査委員 : 田中 啓三

議会運営委員会 委員

◎盛 泰子 ○前田 久年 松永 孝三
松尾 博幸 船津 賢次 内山 泰宏
岩橋 紀行 田中 啓三 浜野 義則

◎ 全国市議会議長会永年勤続表彰

・勤続10年以上:

前田 教一議員、島田 布弘議員、
内山 泰宏議員、笠原 義久議員、
前田儀三郎議員、岡口重文前議員

議案質疑

■ つる・かめ敬老祝商品券

質問 長寿者に敬意を表するとともに異論はないが、敬老祝商品券は「高齢化社会の中で、社会福祉の重点化、効率化は避けられず、介護予防の充実へ向けての施策展開のために」という理由で3月議会で廃止が提案され可決した。骨格予算での肉付けならともかく、政策的な新予算が6月補正で提案されるのは問題である。「朝令暮改」であり、計画性がなさすぎると言える。

■ 答弁 市長

祝い金としてお金を配布することが永続的に続いてよいものかどうか考えての廃止だった。条例可決後、市民の皆さんの意見をお聞きする中で、お祝いのお気持ちを何らかの形で示すことも大事ではないかと考え、形を変えてすることはできないか検討の指示をし、地域振興券の形となった。今回は、市内のみで使える商品券であることが敬老祝商品券とは大きく違う。



総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に所属しない事項

委員会に付託された条例議案6件、補正予算議案1件について、慎重審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

伊万里市くらしの安全条例については、市民が安心して暮らすことができる地域社会を実現するために制定。

報酬及び費用弁償条例については、国会議員の選挙等の施行経費の基準に関する法律改正に伴う改正。

議会等に出頭した選挙人等に対する実費弁償条例の改正については、地方自治法の改正に伴う条例改正。

議会議員その他、非常勤職員の公務災害補償等に関する条例については、佐賀縣市町総合事務組合の設置に伴い条例改正。

又、市行政財産使用料の一部改正については、地方自治法の改正に伴う条例改正。

消防団条例の一部を改正については、佐賀縣市町総合事務組合の設置に伴い改正する必要が生じそれぞれに審査をしたところである。

特にくらしの安全条例については、各委員から多くの意見が出て、条例というものの重みをどのように受け止めているのか、又、その必要性について責任説明が不足していること、くらしの安全の確保を主目的としているが、対象者が比較的子供達中心と言うことで、バランスを欠き、高齢者や障害者等いわゆる弱者への配慮が足りないとの指摘がなされた。ただ、昨年度より行われている子供見守り隊に関した一連の条例で、この理念を尊重し一層の啓発に努めるよう要望したところである。

補正予算議案については、伊万里湾開発40周年記念事業が計画されているが、市側の当初、補正を合わせて200万円の予算に対して、事業の民間企業への寄付依存度が高く現在の社会情勢を考えると寄付要請は慎重にすべきで、今後の検討課題であるとの指摘もなされた。又今回初めての試みで賦課徴収事業の一環として、市は差し押さえ物品のインターネット公売を実施しようとしているが、本来の税徴収率のアップを図る為に、最大の努力を惜しまぬよう申し入れました。



子ども見守り隊 (波多津町)



総務委員会メンバー

- | | | | |
|--------|--------|-------|--|
| ◎笠原 義久 | ○樋渡 雅純 | | |
| 前田 教一 | 多久島 繁 | 松永 孝三 | |
| 船津 賢次 | 前田 久年 | 下平 美代 | |

文教厚生委員会

★所管 市民部（保健・福祉・環境・人権同和）、
教育委員会、市民病院

付託された補正予算2件について慎重審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

民生費の予算で注目したのが、3月議会で社会福祉や介護予防などに重点化したいという理由で条例廃止となった敬老祝金に替えて「つる・かめ敬老祝商品券」を交付したいとの提案がなされたことです。

その内容は、一人あたり額面3千円の商品券を、88歳（米寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）、100歳以上の方合わせて406人に敬老会時に贈呈するものです。

提案に係る質疑応答では余りにも朝令暮改の感じがするなどの指摘もあり、市側からは廃止決定後の反響が大きく長寿者の落胆の声もあるということ、その祝金に替わるものとして皆さんに本当に喜ばれる案をいろいろ模索したなかで、お祝いの気持と併せて地域振興策にもつながることになる商品券の交付を考慮したとの説明がありました。

委員会審査では、商品券交付実施要綱により詳細の質疑を尽くしたうえで本予算を了承しました。

なお、市民へお知らせする交付事務手続きなどについては、7月15日号の市役所だよりに掲載することになっています。

教育費関係の主なものは、市民図書館の駐車場不足で利用者の方から解消策を求められていましたが、今回、元検察庁官舎跡地(H19・1月購入)を不陸整地などの整備を行い19台の

駐車スペースを確保する工事費の提案がありこれを了承しました。

委員会としては、更に将来を見通した駐車場の拡大にも留意してほしい旨の要望もしました。

その他所管事項の報告がありました。市民部関係では、資源ごみ回収奨励事業における補助金交付の変更のことや日本脳炎予防接種用ワクチン確保のことなどの説明を受けました。

また、教育委員会関係では国見台プールおよび体育館について建築後相当の経年もあり、改築の必要もあることなどの説明を受けました。

企業会計の市民病院関係では、委員会構成が変更となったことから、田中俊朗院長の出席も要請して審議、報告を受けましたが、内容的には両市町の病院統合や医師確保にまで考えかたを示され深い知識を得ました。



文教厚生委員会メンバー



敬老祝商品券

◎岩橋 紀行	○山崎 秀明
占野 秀男	高木 久彦
島田 布弘	田中 啓三
福田 喜一	盛 泰子

産業建設委員会

★所管 産業部、農業委員会、建設部、水道部

本委員会に付託された議案は、議案1件と補正議案2件があり、慎重審査の結果、次の要望を付し原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

農地・水・環境保全向上対策事業については、今後関係団体及び地域との連携を強化し、積極的に推進されることを要望する。

伊万里市第4工業用水道建設事業分担金徴収条例制定については、総事業費150億円の事業費の内、一日25,000トンの供給計画で80%以上の利用する企業1社に応分のお願いをしたのが、今回の条例制定の根拠であると説明を受けた。(株)SUMCOからの30億円の分担金で伊万里市の実質公債比率の軽減に成った事に対して、議会からも敬意を表したい。また、平成21年7月の供給開始へ向けて、国・県への要望活動など最大限の努力を求める。



第4工水貯水施設予定地（山代町・現貯木場）

農地・水・環境保全向上対策事業については、本年伊万里市管内では47地区の申請申し込みが有っているが、6月現在では25地区が申請を行っており、今年8月末日が受け付け最終日と考えているとの説明を受けた。

今後の対応については、予算の関係もありますが、市内には161の集落があり、来年度には多くの地域が参加できるように努力していただきたい。

「伊万里農業未来塾」新規就農者育成確保推進事業については、非農家や定年退職者等を対象に農業の基礎から実践までを学ぶ市民を対象に佐賀県の「チャレンジ農業支援事業」を活用し、事業に取り組むとの説明を受けた。約10名程度を考えているが関心がある方について年間10回くらいの勉強会や農家での実践等を行い、将来は農業経営を目指すような塾生が出来ればと考えているとの説明で有ったが、農地や農機具等の斡旋まで考えているのかとの質問に対しては、いまの所は考えていない。今後農業委員会などとも、協議していく考えである。

つぎに、商工業振興総務事業について説明を受けた、北部九州に主要自動車メーカーの工場が点在しているから、市内の企業が部品製作等における新規参入の可能性を調査する業務委託が予算化された。市内には、11の機械金属工業社業者があり、地場産業の育成・技術等を活かした手だてが出来ないものか、情報・意見交換等を行い、協議していく。



産業建設委員会メンバー

- ◎前田儀三郎 ○渡邊 英洋
- 松尾 雅宏 松尾 博幸 草野 讓
- 堀 良夫 内山 泰宏 浜野 義則

一 般 質 問

(質問順)

一 般 質 問 事 項

議員名	質 問 事 項	議員名	質 問 事 項
下平 美代 (一問一答)	1. 交通弱者である高齢者の移動手段の確保について (1)バス路線廃止地区等に対する行政の対応 2. 廃食油の活用について (1)廃食油をバイオディーゼル燃料に (2)公用車へのバイオディーゼル燃料の活用 3. 公共施設の浄化槽管理契約について	船津 賢次 (総括)	1. 介護保険料の軽減制度を 2. 小学校入学前までの子どもの医療費無料化を 3. 市長退職金について
	堀 良夫 (一問一答)	1. 暮らしの安全について (1)条例制定の必要性、具現化の施策について (2)通学路等における夜間照明について (3)防災計画における地域避難計画について (4)本市各種公園における管理運営の一元化について 2. 本市建設事業の発注・入札制度について (1)指名方針について (2)国見中学校屋内運動場建築工事の入札後の処理について (3)今後の入札における事故防止対策について	松永 孝三 (一問一答)
松尾 雅宏 (一問一答)			1. 農地・水・環境保全向上対策について 2. 品目横断的経営安定対策について
草野 謙 (一問一答)			1. 3つの公的病院の統合について 2. 第4工業用水道事業について
高木 久彦 (一問一答)	1. 公立3病院の統合について 2. 高校総体来客者への本市PRについて	前田儀三郎 (一問一答)	1. 繁殖牛生産拡大支援事業について (1)伊万里市高齢者等肉牛飼育モデル事業の現状について (2)素牛生産者に対しての市の取り組み状況について (3)今後の繁殖雌牛増頭計画の取り組みについて 2. 消防行政について (1)松浦市福島分署のその後の経過について (2)市内に大きな工場進出があるが今後の対応について (3)広域消防の協議について
浜野義則 (一問一答)	1. 国見中学校屋内運動場(体育館)建設について 2. 人事FA制度について		
笠原 義久 (一問一答)	1. 第4工業用水道事業によって生じる起債の市財政に及ぼす影響について 2. 町づくり三法の改正にともない、今後、市の町づくり対策の基本的な考え方について	松尾 博幸 (一問一答)	1. 公民館の宿日直員制度廃止について (1)廃止の理由 (2)住民への説明はどうされたのか (3)非常時のサイレン吹鳴のシステムについて (4)今後の計画について(各公民館廃止をされるのか)
盛 泰子 (一問一答)	1. 常設型住民投票条例について 2. 頑張る地方応援プログラムについて (1)市民活動サポートセンター (2)コミュニティバス 3. 公益通報者保護制度について 4. 「家読」に関連して (1)市民図書館の状況 (2)ぶっくんの状況 (3)ブックスタート	樋渡 雅純 (一問一答)	1. 視覚障がい者の情報バリアフリーについて (1)カラーバリアフリー対応のその後 (2)「活字文書読み上げ装置」の導入 2. 高齢社会下での交通手段について (1)課題を探るアンケート調査 (2)新しい地域交通の研究 (3)移動手段確保への市の考え 3. 新しい4つの財政指標について

一般質問

市街地と周辺を
結ぶ愛のりたく
シーを

下平 美代

質問 ①いまりんバスの車の購入費は社会福祉協議会の社会福祉基金からであり、維持費も一般財源よりの支出。周辺地区からは不公平との声もある。

②バス路線廃止地区。バスの便の少ない地域に対する交通手段の確保について。先進地に学ぶ取り組みを。(北海道伊達市を紹介、愛のりタクシー)

答弁 市長・産業部長

①市街地の者、市を訪れる者にとっては便利だが市街地だけで不公平との声も承知している。

②周辺地域の交通手段の確保は重要な課題だと認識している。現在路線バスには5500万円の補助をしているが、伊達市の例などを参考にすれば主要路線は残すとしても、

5500万円を下回る金額で取り組めないか、真剣に検討し実現にむけて努力する。(伊達市Ⅱ予約制会員制・料金・ブロック別)

廃食油をバイオ
ディーゼル燃料に

質問 ①廃食油の処理の現状。

②伊万里市新エネルギービジョンの趣旨にそって学校給食廃食油は、はちがめプランに。

③公用車をバイオディーゼル燃料で。

答弁 市民部長

各家庭の廃食油は85%、一般ごみで処理。事業所分は産業廃棄物として処理。

教育部長

学校給食センターは、市内業者の有価物として売却。

市長

市公用車まず一台でも使用できる準備にはいたりない。学校給食センターの廃油については時間を頂きたい。

(二問同種質問あり省略)

くらしの安全
について

堀 良夫

質問 「くらしの安全条例」が提案されたが、その具現化の施策について。市民病院から国見中学校間に街灯がなく、生徒の防犯対策が心配される。設置の検討を。

答弁 教育部長

指摘の箇所は、不特定多数の方が利用される状況であり、庁内関係部署や農林高校とも設置の可能性について協議したい。

建設事業への発注・
入札制度について

質問 談合防止のため、国・県が指名競争入札制度の見直しを行っているが、市の対応は。

答弁 政策経営部長

県内10市で構成する「入札・契約制度検討部会」で、入札参加条件等、県内で統一して検討すべき項目の検討に着手しており、合わせ

て地元業者育成の視点も取り入れ公正な競争の方策を検討中。

質問 国見中学校屋内運動場建築工事の入札後の処理について。

答弁 教育部長

事務的なミスにより、誤った入札会を行うことになったものであり、関係者に大変ご迷惑をかけお詫び申し上げます。入札参加者と今後の進め方について協議を行うとともに、方向性について法的なことを含め、庁内でも協議中であり、今しばらく時間を頂きたい。

質問 今後の入札における事故防止対策について。

答弁 政策経営部長

庁内関係部署で検討を行い、ミスをなくすためのチェック体制を確立するため、最低制限価格算出マニュアルの整理を図るとともに、今回のようなミスが二度と起こらない体制をつくる。

公的3病院の
統合について

高木 久彦

質問 中核的病院整備については、公的3病院での統合協議がなされるものと理解していたが、3月議会での答弁や新聞報道によれば、社会保険浦之崎病院は、枠組みから外されているように思えるが。

答弁 市長・政策経営部長

浦之崎病院については、社会保険庁改革関連法案の国会審議の関係で、譲渡が先行き不透明の状態である。現段階で枠組みに入れるのは難しい状況にあり、当面2病院での統合を先行させたい。

質問 浦之崎病院について今後の市の対応は。

答弁 市長

浦之崎病院は、本市西部地区や北松地区医療圏で重要な役割を担ってもらって

一般質問

いる。今後存続の可能性もあることや民間への売却も危惧されることから、現時点で譲渡申請を取下げの考えはない。

高校総体来客者への本市PRについて

質問 本市ではホッケー競技が行われ、多数の来客が予想される。全国へ本市をPRする絶好の機会であると思うが、市の考えは。

答弁 教育部長

役員・選手を含め約8千人の来客を見込んでいる。ホテルには観光パンフや物産品の注文書を置き、伊万里駅及び国見台には案内所や物産販売所を設け、観光地の案内ビデオを放映するなど万全の対応をしたいと考えている。

答弁 教育長

観光案内や物品販売のみならず、温かいもてなしの心で応待し、伊万里のイメージアップを図ることに心がけたい。

人事FA制度について

浜野 義則

質問 価値観の多様化等により市民の要求が、多様化・複雑化・専門化・高度化していく中で、自治体職員の意識改革や人材育成が求められている。伊万里市でも人材育成を導入して4年が経過したが、

- ①実績と評価は
- ②対象者の範囲や行使回数を広げたほうがよくないか。
- ③FA制度利用者が不利益な取扱いを受けることは？
- ④FA制度を充実させていくために今後の考えは。

答弁 市長 総務部長

- ①これまで4年間で40名が移動している（申込者68人）が、移動先での評価は71%が良好ということから見て、一定の効果が出ていると考えている。
- ②係長までは範囲を広げて

もいいのではとも考えているが回数等も含めこれまでの経過を踏まえ検討したい。

- ③不利益を受けることはない。対象者はもつと積極的に申し込んでほしい。
- ④やる気や技術向上にもつながり、効果も期待できることから見直し等も含め制度の充実を図りたい。

国見中体育館について

質問 入札において、参加した5社のうち3社が最低制限価格以下で失格となっているが、最低制限価格の設定は適切だったのか。

答弁 教育部長

今回の最低制限価格設定は、市のマニュアル、財務規則にそって設定されたものだが、今回の件も教訓にしながら、マニュアル等を見直したい。

第4工業用水道事業について

笠原 義久

質問 第4工業用水道事業によつて生じる起債の市財政に及ぼす影響は。

答弁 政策経営部長

現在の実質公債費比率がピーク時2%のアップと想定される。財政計画に則り、市のハード事業の厳選化が求められてくる。

質問 今後の起債償還のめどは。

答弁 政策経営部長

サムコの法人、市民税等で年5億ほどの増収が見込まれ、年3億の起債償還を続けても、単年度で約2億の余剰金が生じる。この財源は財政調整基金に積み立てたり、市民生活に必要な事業にも使うことができ

コンパクトシティ構想について

質問 町づくり三法の改正に伴い市の都市計画を見直す考えはないか。

答弁 建設部長

約1100haを都市計画の対象とし、用途地域を定めている。将来を予測しながら市街地形成の方向性を定めなければならぬが、用途地域の変更はあっても、見直しの考えはない。都市計画審議会では単なる土地利用だけでは、変更困難で目的の確固たる理念が必要である。

質問 伊万里市はコンパクトシティ構想に取り組む考えはないか。

答弁 市長

市街地の捉え方が違う。都市基盤整備が進み、市街地が形成された都市が該当するのであって、伊万里市には当てはまらない。

常設型住民投票条例

盛 泰子

質問 「非日常」の事態が起こった時に、住民投票が出来るように常設型住民投票条例を制定するべきではないか。

答弁 市長

「もの、とき、場合」によつては必要な制度だと思ふが現在は考えていない。研究はしてみる。

公益通報者保護制度

質問 業務上の法令違反などを通報した人を保護する制度が法制化されたが、市の取り組みは。

答弁 総務部長

職員の法令順守意識のためにも有効な制度であり、今年度中に内部規定などを整備する。

市民活動支援センター

質問 まちづくりグループ

などの活動拠点として懸案事項であったが。

答弁 政策経営部長・市民部長

「頑張る地方応援プログラム」の制度により、電算センター跡への整備を検討中。同所への移転を考えていた「ぼつぽ」はひまわり園跡に予定。

市民図書館の状況

質問 ①開館後12年が経ち、不具合が生じている箇所が見られる。「予防保全」のためにも、早めの手当てを。②ブックスタートは、3ヶ月健診時に絵本2冊等とバックがプレゼントされていたが、枠配分予算の中で、今年度は絵本1冊となり残念である。

答弁 教育部長・市長

①限られた予算の中ではあるが、利用者に不便を掛けないように目配りしていきたい。②新たに提唱した「家読」はブックスタートの延長線上にあり、子育て応援基金などの活用により充実を図りたい。

介護保険料の軽減制度を

船津 賢次

質問 生活保護基準以下の世帯にも高い介護保険料が課されている。低所得者に対する減免制度が必要ではないか。

答弁 市長

第4期介護保険事業の策定作業の中で生活困窮者に対する減免の問題もぜひ議論をし、研究してゆきたい。

子どもの医療費無料化を

質問 就学前までの医療費無料化は県内10市の中で伊万里市が一番おくと、19年度予算でみると、対象児童一人当たり最高が嬉野市の6万135円、伊万里市は768円だ。各自治体が子育て支援の中心として充実を競っている。県も6月議会に入院の半額補助を提案している。来年度

答弁 市長

痛みを分かち合いたいという気持ちはある。いろいろな意見もあるし、市民のみなさんの痛みもある。総合的に判断し、今後、私も熟慮させていただきたい。

からは健保の本人2割負担が就学前までに拡大される。充実にしやすい状況も生まれているが。

答弁 市長

やりたい施策だが、今後、県と一緒に推移をしながら頑張つてゆきたい。

市長退職金について

質問 アンケートでは塚部市政を評価すると答えた方も含めて79%が減額すべきと答えている。また、厳しい財政状況を反映して見直しが必要な流れにしようとしているが。

答弁 市長

痛みを分かち合いたいという気持ちはある。いろいろな意見もあるし、市民のみなさんの痛みもある。総合的に判断し、今後、私も熟慮させていただきたい。

市営公共施設の浄化槽業務の契約について

松永 孝三

質問 指名競争入札から随意契約に変更した経緯。

答弁 建設部長・政策経営部長

下水道の導入に伴って業務が減る。既存の浄化槽管理業者の経営安定を図る「特別法」に基づく措置。

質問 下水道の整備に伴う業者に対する「合特法」に基づく本市の措置。

答弁 建設部長・政策経営部長

「合特法」に基づき代替業務として、本市は88年以来、浄化センターの維持管理業務を提供している。

質問 浄化センター維持管理を1億円前後で、地元2社に随契で発注している。

答弁 建設部長・政策経営部長

下水道のエリアの拡大で

一般質問

汲み取りや浄化槽の管理清掃業務が減る。「合特法」がある限り、浄化センター管理業務を提供しなければならぬ。

質問 今後「合特法」に基づき、どのように対応。

答弁 政策経営部長

随契への移行は、あくまでも暫定措置で、今年度中に、公共下水道が既存業者に与えた影響を分析し、それを基にして合理化計画案を策定。来年度以降、同計画案に基づいて、契約方式を決める。

質問 これまでの質問に対して総合的な市長の見解を。

答弁 市長

「合特法」の持つ経緯は、説明の通りで、既存業者の救済措置を考慮しながら、新規業者の入札参入も考慮していかねばならない。合理化計画案を策定し、今後は契約方法も検討していく。

農地・水・環境保全
向上対策及び品目
横断対策について

松尾 雅宏

質問 戦後農政の大転換と言われる本事業がスタートした。高齢化と環境を考えた中で重要な事業と思うが参加地域が少なかったのは何故か。

答弁 産業部長

1月から説明を行ったが、要件に地域ぐるみで行うとか、リーダーがいらない(煩雑な申請書を作成する)とか組織体制が整わず47地域となった。

質問 この事業は19年に参加しないと5年間で途中参加は出来ないのでは、県に問い合わせたところ8月まで受け付け可と、聞いたが伊万里市は。

答弁 産業部長

途中参加について国に問い合わせるところ、次年度から参加可能に見直したとの事であったので、本年は47地区とする。しかし議員の

質問であった申請準備がすぐ出来る地域は本年追加受付をする。

質問 品目横断に市はどの様に開わりるか。又、法人化に向けて市の出番と思うが。

答弁 産業部長

市に事務局を持つ担い手育成協議会でJ Aと共に法人化に向けて準備を行う。

質問 環境にやさしい農業生産活動への取り組みは。

答弁 産業部長

ハードルが高い様だがJ A及び地域農家と十分協議を行い、20年より取り組みたいと思う。

質問 農振地除外が地権者も知らない内になされている。

答弁 産業部長

平成13年に農業振興地域整備計画で策定されたが農業者毎に通知はせず、告示でなされていたからである。

3つの公的病院
の統合について

草野 譲

質問 3つの公的病院の統合というが果たして浦之崎病院とも同時進行した形で統合が出来るのか。

答弁 市長

浦之崎病院とも同時進行した統合が望ましいが今国会での社会保険庁の改革案の結審を待たなければならぬ。まずは2病院で進め、平成21年4月の開院を目指したい。

質問 今回有田町の共立病院との統合の申し入れであるが、あまりにも有田町側に配慮しすぎた分があるのではないか。又、最終的な判断を有田側に一任するという事もおかしい。

答弁 市長

今回統合の申入れを行い協議を進めて行くが、伊万里の地に建設するとなればこの話は白紙だとの事であ

り、ベット数の問題とか、市民病院の赤字の問題とか、有田地区には民間病院が少ない等のことを考慮しながら進めて行く。いずれにしても市民のご理解を賜りたい。

質問 西有田に建設するのに反対である。理由は公共下水が整備されていないからである。共立病院も合併浄化槽であり、病院内の様々な生活雑排水や手術後の洗浄水も含め浄化槽を通り、その水は有田川に流されている。いくら浄化された水とはいえ有田川に流された水を我々は下流でもって汲み上げ、飲み水として使用している。環境問題として考えても新病院建設地は下水道等、社会資本の整備がきちんとされた地域でないとなされた地域でないと新病院の建設をすべきではないと思う。

答弁 市長

それらの事も第3者機構を立ち上げきちんと審議をする。

一般質問

繁殖牛拡大支援
事業について

前田儀三郎

質問 伊万里産・佐賀牛がブランド化する中、県外産に頼っているのが現状と思うが、伊万里市としての今後の対応は。

答弁 産業部長
約25%位が県内産で、他を県外産に頼っている。また、伊万里市高齢者等肉牛飼育モデル事業で現在9頭を貸し付けているのが現状である。今後は佐賀県経済連等で増頭計画があるので対応して行く考えである。

答弁 市長
バイオエタノール燃料等の開発で、畜産農家が経営的に苦しんでおられるのが現状である、また肥育農家は牛の血統とか、好みでそれぞれ導入されているが、今後は協議を重ねて検討したい。

消防行政について

質問 伊万里湾沿岸部に大型企業が進出し操業している。常備消防の今後の対応について、20年4月より、福島分署が松浦地区消防組合に移管されるが、伊万里市西・北部地区の消防行政はどの様に考えているのか。

答弁 消防長
福島分署については「相互支援協定」について、今協議を行っており、19年度中には合意するものと考えている。企業・工場に対しては消防法の適応で随時指導点検を行っている。

答弁 市長
広域消防の計画が進められていて、まずは佐賀県内で取り組み、その後は県境を越えた枠で進むものと考えている。伊万里市西・北部の消防行政については今後協議を行い、対応して行きたい。

答弁 市長
広域消防の計画が進められていて、まずは佐賀県内で取り組み、その後は県境を越えた枠で進むものと考えている。伊万里市西・北部の消防行政については今後協議を行い、対応して行きたい。

公民館の宿日直員
制度廃止について

松尾 博幸

質問 公民館は地域に密着した学習活動や、地域づくり活動の場として、またコミュニティ活動の拠点として、なくてはならない施設である。何故、宿日直を廃止しなければならなかったのか。宿日直業務見直しに至る背景はなにか。又、他市の状況は。

答弁 教育部長
自主財源に乏しい本市はこれまで以上に、厳しい財政運営を強いられている。このため市民サービスの充実に向けた財源を確保する為、歳出の削減に努めている。その一環として公民館の宿日直業務の見直しを実施した。県内各市の状況を見ると、当市のように年間通して実施しているところはない。

質問 宿日直業務の見直しの内容はどうなっているのか。

答弁 教育部長

国民の祝日及び年末年始の20日間を休館日とし、終日閉館する。牧島、波多津、大川公民館については宿日直業務を廃止し、終日機械警備にする。残り10館は、日直業務のみ。宿日直業務は廃止し、平日は機械警備する。

質問 各町への説明、市民への周知はどのようにされたのか。緊急時の対応は。

答弁 教育部長
各町区長会、消防分団会議で説明をした。市民への周知は、広報いまり、ホームページ等でお知らせした。

答弁 消防長

緊急事態が発生した地域の、公民館サイレンを、消防本部から遠隔操作で鳴らす。

質問 今後の廃止計画について。

答弁 教育部長
3年を目安に廃止の方向に。

活字文書読み
上げ装置

樋渡 雅純

質問 視覚障がい者の方の活字文書、生活情報へのアクセスが大変困難。公的窓口へ、この装置を早期に積極的な導入をすべきでは。

答弁 市民部長

国、県より上限100万円の支援が受けられる。9月の補正で、機械8台と「SPコード」ソフトを購入したい。設置場所については福祉課などの窓口や、市民図書館、市民センターなど今後協議したい。

高齢社会化での交通手段

質問 今後、便利の良い交通体系を目指すために、市民ニーズや地域課題を把握できる、利用実態調査の実施と本格的な研究を。

答弁 市長・産業部長

全体的な情報調査を年内

に実施し、集計、分析を行い全体の見直しを図る。県との協議も合わせて行い、先進事例も調査しながら、伊万里市でできる交通システムを研究していく。

4つの財政指標

質問 夕張市の破たんを機に、前段階で財政の健全化を図るために、4つの指標を示す方向にある。一般、特別、企業の全会計を連結した財務諸表の公表を。

答弁 政策経営部長

指標の一つである、実質公債費比率も19%からH26年最大23%へとUPが予測される。財政健全化計画を実施中であるが、特別、企業会計においては十分なチェックもできていない。方法論を明確にし、全体の財政状況を示す連結バランスシートなど、平成21年の早い段階で示していきたい。

行政視察受け入れの状況（平成18年7月～12月）

月	来訪議会名	人数	視 察 項 目	
7	宮城黒川地方町村議会 議長会	8	議会運営・議会改革、行政改革、伊万里 サステイナブル知的特区	
	福島県大熊町議会	7	伊万里はちがめプラン	委
	北海道岩見沢市議会	15	学校給食センター、食のまちづくり推進計画	委
8	愛知県蟹江町議会	5	PFIを活用した学校給食センター整備	会
9	富山県砺波市議会	4	畑の中のレストラン、市民参加での図書館づくり	会
	大分県豊後高田市議会	10	畑の中のレストラン	委
10	青森県弘前市議会	8	さわやか市政	委
	岐阜県議会	12	大川内鍋島藩窯跡など	委
11	愛知県一宮市議会	9	市民図書館	会
	宮城県気仙沼市議会	10	西九州自動車道の整備状況	委
	熊本県合志市議会	10	議会運営、議会改革	委
	鹿児島県出水市議会	10	議会運営、議会改革	委
	埼玉県坂戸市議会	7	伊万里駅周辺活性化事業	会
	栃木県矢板市議会	5	学校給食センター	会
	新潟県南魚沼市議会	11	財政健全化計画、子育て応援基金	会
	茨城県常陸太田市議会	7	企業誘致取り組み、中心市街地活性化基本計画	委

※「委」は委員会、「会」は会派での視察を意味します。

伊万里市選挙管理委員及び同補充員

委 員

前田 ヌイ、中島 初雄、宝藏寺伸義、帆足 満生

補 充 員

永益 克子、岩永 孝雄、金子 照夫、吉富 紀子

「教育予算の拡充」を 求める意見書

地方自治法第99条の規定により、義務教育費にかかる予算確保を要望する意見書を提出しました。
(本文は、会議録に掲載します)

意見書

暑中お見舞い申し上げます

公職選挙法の規定により、選挙区内の皆さんへの金品を伴った初盆のお参りや、時候のご挨拶には制限がありますので、失礼させていただきます。

議員一同

編集後記

改選後、新しい構成での議会活動もスタートしました。編集メンバーも入れ替わり、読みやすく、わかりやすい議会だよりを目指してまいります。

ページ数の制限はありますが、今後各種委員会報告などの充実に努めたいと思います。市民の皆様からのご意見などお待ちしております。

◎樋渡雅純 ○山崎秀明
松尾雅宏 多久島繁
前田久年 渡邊英洋
顧問 占野秀男、盛泰子

発行

伊万里市議会
伊万里市立花町一三五五―一
☎0955-123-1211
☎0955-121-1277
E-mail: gika@city.imari.lg.jp

編集

市議会だより編集委員会

印刷 山口印刷株式会社

